

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045101) 中国語 I (1) I Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期水2, 金4	対象年次 1~	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 緒方 宏海, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。				
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。				
到達目標				
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a:課題解決のための汎用的スキル b:広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかり身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。				
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面				

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045102) 中国語 I (1) □ Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期水2, 金4	対象年次 1~	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 張 蕾, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。				
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。				
到達目標				
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a:課題解決のための汎用的スキル b:広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。				
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面				

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045103) 中国語 I (2) I Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月3, 木2	対象年次 1~
	水準 学士: 基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎, 山西 弘朗	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。			
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。			
到達目標			
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a: 課題解決のための汎用的スキル b: 広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。			
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。			
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面			

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。
なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045104) 中国語 I (2) □ Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月3, 木2	対象年次 1~
	水準 学士: 基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎, 劉 曉君	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。			
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。			
到達目標			
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a: 課題解決のための汎用的スキル b: 広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。			
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。			
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面			

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045105) 中国語 I (3)Z I Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月4, 木3	対象年次 1~	
	水準 学士: 基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 張 蕾, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。				
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。				
到達目標				
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a: 課題解決のための汎用的スキル b: 広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかり身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。				
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面				

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045106) 中国語 I (3) □ Chinese I Chinese I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月4, 木3	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 李 九妹, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけさせる。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深めさせる。			
授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。			
到達目標			
1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの a:課題解決のための汎用的スキル b:広範な人文・社会・自然に関する知識に対応する。			
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。			
第1回 声調 第2回 短母音 第3回 子音 第4回 複合母音 第5回 鼻母音 第6回 声調変化とR化 (以下の回は曜日配列により微修正されることがある) 第7回 対面			

第8回代名詞・動詞述語文
第9回対面2
第10回形容詞述語文、副詞の用法
第11回宿舎
第12回所在所有の文型、疑問文
第13回宿舎2
第14回疑問詞、的の用法
第15回食堂
第16回時態助詞
第17回(中間試験)
第18回キャンパス
第19回進行形、比較構文
第20回学習
第21回時量詞動量詞
第22回家庭
第23回(レポートの説明)
第24回訪問
第25回数詞、名量詞
第26回買い物
第27回離合動詞
第28回買い物2
第29回助動詞
第30回総復習

なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する(15時間)
該当箇所の進出単語を調べる(15時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 20時間
指示された課題の作成(10時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2023年出版のテキストを購入すること。なお、2022年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2022年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室：木曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・創造工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予めMoodleで申込み、クラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045201) 中国語Ⅱ (1)Ⅰ ChineseⅡ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期水2, 金4	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 張 蕾, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)				
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。				
到達目標				
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)				

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式 被動式 兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)
音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)
中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045202) 中国語Ⅱ(Ⅰ) □ Chinese Ⅱ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期水2, 金4	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海, 高橋 明郎	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)			
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。			
到達目標			
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)			

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式被動式兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)
音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)
中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045203) 中国語Ⅱ (2)Ⅰ ChineseⅡ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月3,木2	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 高橋 明郎, 張 蕾	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)				
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。				
到達目標				
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)				

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式被動式兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)

音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)

中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。

なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045204) 中国語Ⅱ(2) □ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月3,木2	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 高橋 明郎, 山西 弘朗	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)				
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。				
到達目標				
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)				

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式被動式兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)
音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)
中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045205) 中国語Ⅱ (3)ZⅠ ChineseⅡ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月4,木3	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 高橋 明郎, 李 九妹	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)				
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。				
到達目標				
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)				

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式被動式兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)
音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)
中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045206) 中国語Ⅱ (3) □ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月4, 木3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎, 山西 弘朗	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間)			
授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を解説する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。			
到達目標			
1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードのa「課題解決のための汎用的スキル」b「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 会話・文法(曜日の配列によって修正される可能性がある) 第1回キャンパス 第2回介詞・重ね型 第3回経路 第4回11課ドリル 第5回電話ボックス 第6回方向補語 第7回研究室で 第8回12課ドリル 第9回郵便局 第10回結果補語 第11回小包 第12回13課ドリル 第13回(レポート説明)			

第14回 食堂
第15回 可能補語
第16回 (中間試験)
第17回 14課ドリル
第18回 会計
第19回 状況補語程度補語
第20回 クリスマス
第21回 15課ドリル
第22回 パーティー
第23回 処置式被動式兼語式
第24回 冬休み
第25回 16課ドリル
第26回 駅で
第27回 近未来、連動文
第28回 重文連鎖文
第29回 会話総復習
第30回 17, 18課ドリル

作文(課題)

- ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間)
音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間)
中国語作文課題(15時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。
長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2022年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2022年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。
高橋研究室 金曜12:00~12:45 南キャンパス2号館

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次(編入は3年次)の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までにMoodle上で履修願を提出してクラス指定を受けること。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 045301) 中国語Ⅲaイ Chinese Ⅲa 中国語Ⅲaイ会話(中級) Chinese Conversation (Intermediate)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前月2	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海, 李 九妹	関連授業科目 中国語Ⅲb 履修推奨科目 中国語Ⅲb			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 中国語Ⅰと中国語Ⅱ両方を履修した学生、または中国語を1年以上学んだことのある学生を対象とした中級クラス(会話)の授業です。初級で学習した中国語の知識(発音、文法など)を復習しながら、中級レベルの会話表現を身に付け、中国語でコミュニケーションができるようになることを目指します。ネイティブ・スピーカー教員が担当し授業において正確かつ自然な声調で流暢に音読・会話できることを目指します。				
授業の目的 この授業の目的は、中国語中級レベルの会話・話す能力の向上を目的とします。将来のビジネスの場や観光などの場面に応じて役に立つ自己表現能力を磨くとともに、中級レベルの会話を正しく発音できることを目指します。また中国語検定試験3級、4級合格のために必要な能力を身につけることを目指します。				
到達目標				
1. 中国語を正しく発音できる。 2. 場面に応じて適切な表現でコミュニケーションできる。 3. 将来のビジネスの場や観光などの場で役に立つ自己表現能力を磨く。 4. 中国語検定試験3級、4級合格レベルの力をつける。				
成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 在成都机? 第3回 第2課 ?重逢干杯 第4回 第3課 做日程表 第5回 第4課 在迪士尼?? 第6回 第5課 ?迎光? 第7回 第6課 就?面? 第8回 復習 第9回 第7課 去富士山 第10課 給医生当翻? 第11回 第9課 在公司?? 第12回 第10課 怎??年? 第13回 第11課 陪同?礼物 第14回 第12課 送?会 第15回 総括と質疑応答 ※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。 ※毎回の予習・復習をしっかりとっておくこと。				

※受講者の理解度を確認しながら進めるので、必ずしも予定通りに進むとは限らない。

教科書・参考書等

★教科書；『もっと活躍しよう！中国語中級』朝日出版社本体2,420円。徐送迎著。生協で購入すること。

★辞書：長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。

オフィスアワー 毎回の講義の後。水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

将来中国語を活かした職業に就こうと思う学生や、留学、観光、検定合格など自身の将来のための大きな武器となるよう、授業の予習、復習を行い、単語量と会話の量を増やす努力をしましょう。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 045302) 中国語Ⅲa Chinese Ⅲa 中国語Ⅲa会話(中級) Chinese Conversation (Intermediate)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前月2	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海, 張 蕾	関連授業科目 中国語Ⅲb 履修推奨科目 中国語Ⅲb			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 中国語Ⅰと中国語Ⅱ両方を履修した学生、または中国語を1年以上学んだことのある学生を対象とした中級クラス(会話)の授業です。初級で学習した中国語の知識(発音、文法など)を復習しながら、中級レベルの会話表現を身に付け、中国語でコミュニケーションができるようになることを目指します。ネイティブ・スピーカー教員が担当し授業において正確かつ自然な声調で流暢に音読・会話できることを目指します。				
授業の目的 この授業の目的は、中国語中級レベルの会話・話す能力の向上を目的とします。将来のビジネスの場や観光などの場面に応じて役に立つ自己表現能力を磨くとともに、中級レベルの会話を正しく発音できることを目指します。また中国語検定試験3級、4級合格のために必要な能力を身につけることを目指します。				
到達目標				
1. 中国語を正しく発音できる。 2. 場面に応じて適切な表現でコミュニケーションできる。 3. 将来のビジネスの場や観光などの場で役に立つ自己表現能力を磨く。 4. 中国語検定試験3級、4級合格レベルの力をつける。				
成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 在成都机? 第3回 第2課 ?重逢干杯 第4回 第3課 做日程表 第5回 第4課 在迪士尼?? 第6回 第5課 ?迎光? 第7回 第6課 就?面? 第8回 復習 第9回 第7課 去富士山 第10課 給医生当翻? 第11回 第9課 在公司?? 第12回 第10課 怎??年? 第13回 第11課 陪同?礼物 第14回 第12課 送?会 第15回 総括と質疑応答 ※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。 ※毎回の予習・復習をしっかりとっておくこと。				

※受講者の理解度を確認しながら進めるので、必ずしも予定通りに進むとは限らない。

教科書・参考書等

★教科書；『もっと活躍しよう！中国語中級』朝日出版社本体2,420円。徐送迎著。生協で購入すること。

★辞書：長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。

オフィスアワー 毎回の講義の後。水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

将来中国語を活かした職業に就こうと思う学生や、留学、観光、検定合格など自身の将来のための大きな武器となるよう、授業の予習、復習を行い、単語量と会話の量を増やす努力をしましょう。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 045303) 中国語Ⅲbイ Chinese Ⅲb 中国語Ⅲbイ 中国語講読(中級) Chinese Reading (Intermediate)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期木3	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 緒方 宏海, 劉 曉君	関連授業科目 中国語Ⅲa 履修推奨科目 中国語Ⅲa		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 中国語初級を履修した学生が更に力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。この授業では1年次において身につけた基礎学力をもとに、初級段階で学習した発音と文法の復習を行いながら、中級段階の文法事項を学び、文章読解力の向上に努めていく。			
授業の目的 中国語を一年間学習した学生を対象とする。これまで学んだ中国初級の文法を基に、纏まった文章を読解しながら、新しい中国語の表現を学ぶ。また中国語検定試験にも対応する。			
到達目標			
1. ある程度まとまった文章の構造を理解しつつ、長文読解ができるようにすること。 2. 中国語検定3級を視野に入れた中国語能力を身につけること。 3. 中国社会と文化に対する理解を深めること(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 学生が自信を持って中国語表現できるようになることを目標とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につけること(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 自我介? 第3回 「的」の用法・練習問題 第4回 第2課 我的家庭 第5回 「地」の用法・比較用法 第6回 第3課 互?网 第7回 「疑問詞の呼応表現」・「即使, 也」・練習問題 第8回 復習 第9回 第4課 ?会 第10回 「着」の用法・複合方向補語・動詞の重ね型の完了形 第11回 第5課 温泉旅行 第12回 結果補語・存現文・練習問題 第13回 第6課 我的?好 第14回 可能補語・「只要, 就」・練習問題			

第15回 総括練習と質疑応答

※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。
※毎回の予習・復習をしっかりとしておくこと。
※受講者の理解度を確認しながら進めるので、必ずしも予定通りに進むとは限らない。

教科書・参考書等

★教科書；『2冊めの中国語《講読クラス》』白水社CD付本体2,300円＋税。劉穎他著 白水社劉穎・柴森・小澤正人著2012年。生協で購入すること。
★辞書：長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。

オフィスアワー 講義の後。水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

将来中国語を活かした職業に就こうと思う学生や、留学、観光、検定合格など自身の将来のための大きな武器となるよう、授業の予習、復習を行い、単語量と読解の量を増やす努力をしましょう。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 045304) 中国語Ⅲb Chinese Ⅲb 中国語Ⅲbロ 中国語講読(中級) Chinese Reading (Intermediate)	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期木3	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 緒方 宏海, 山西 弘朗	関連授業科目 中国語Ⅲa 履修推奨科目 中国語Ⅲa		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 中国語初級を履修した学生が更に力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。この授業では1年次において身につけた基礎学力をもとに、初級段階で学習した発音と文法の復習を行いながら、中級段階の文法事項を学び、文章読解力の向上に努めていく。			
授業の目的 中国語を一年間学習した学生を対象とする。これまで学んだ中国初級の文法を基に、纏まった文章を読解しながら、新しい中国語の表現を学ぶ。また中国語検定試験にも対応する。			
到達目標			
1. ある程度まとまった文章の構造を理解しつつ、長文読解ができるようにすること。 2. 中国語検定3級を視野に入れた中国語能力を身につけること。 3. 中国社会と文化に対する理解を深めること(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 学生が自信を持って中国語表現できるようになることを目標とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につけること(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 自我介? 第3回 「的」の用法・練習問題 第4回 第2課 我的家庭 第5回 「地」の用法・比較用法 第6回 第3課 互?网 第7回 「疑問詞の呼応表現」・「即使, 也」・練習問題 第8回 復習 第9回 第4課 ?会 第10回 「着」の用法・複合方向補語・動詞の重ね型の完了形 第11回 第5課 温泉旅行 第12回 結果補語・存現文・練習問題 第13回 第6課 我的?好 第14回 可能補語・「只要, 就」・練習問題			

第15回 総括練習と質疑応答

※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。
※毎回の予習・復習をしっかりとしておくこと。
※受講者の理解度を確認しながら進めるので、必ずしも予定通りに進むとは限らない。

教科書・参考書等

★教科書；『2冊めの中国語《講読クラス》』白水社CD付本体2,300円＋税。劉穎他著 白水社劉穎・柴森・小澤正人著2012年。生協で購入すること。
★辞書：長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。

オフィスアワー 講義の後。水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

将来中国語を活かした職業に就こうと思う学生や、留学、観光、検定合格など自身の将来のための大きな武器となるよう、授業の予習、復習を行い、単語量と読解の量を増やす努力をしましょう。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045501) 中国語会話Ⅲ Chinese Conversation Ⅲ 中国語会話Ⅲ Seminar on Advanced Chinese Conversation	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前月2	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語Ⅲa 中国語Ⅲb 中国語速修Ⅰ 中国語速修Ⅱ		
	履修推奨科目 中国語Ⅲa 中国語Ⅲb		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 この授業は、初級、準・中級中国語を一通り学習した者を対象とします。中国語中級、上級へと進む際に重要なのは、会話の量と文法の知識、これらを実際に運用できることです。そこでこの授業では、日常生活に結びついた場面を想定し、実践的な中国語能力の向上を目指します。中級、上級の会話能力を総合的に高めていくために、それらを相互に運動させて練習することが必要です。中国や台湾の語学研修や留学の他、将来は中国語を生かした職に就きたいと考えている学生を対象にして、特に実践的なコミュニケーション力を強化することを目指します。			
授業の目的 中国語の簡易な文章を読んだり、簡単な日常会話を行うことができるレベルに到達した学生が、語彙力・表現力に磨きをかけたり、より流暢に会話できることを目的とします。中国語で自分の意見や見解を表現できる力を養います。また中国語検定やHSKの教材を用いて、語彙の強化、表現力の向上にも努めます。授業は殆どが中国語で行われますが、難しい表現、言葉に困った時などは日本語で丁寧に説明します。			
到達目標			
1. 日常会話を聞き取れるようにする。 2. 日常会話を話せるようにする。 3. 基本的な中国語の文章を読めるようにする。 4. 基本的な中国語作文を書けるようにする。			
成績評価の方法と基準 (会話の小テスト25%, レポート25%, 期末テスト50%等)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 自己紹介 趣味について中国語で話そう。 第2回 中国語レベルチェック。 第3回 中国と台湾について知ろう。 第4回 中国・台湾文化について語ろう。 第5回 中国と台湾について知ろう。 第6回 中国・台湾文化について語ろう。 第7回 中国事情を紹介したビデオを見る。 第8回 中国事情を紹介したビデオを見る。 第9回 中国語でメールを書こう。 第10回 中国語検定、HSKの模試を解いてみよう。 第11回 中国語検定、HSKの模試を解いてみよう。 第12回 中国語検定、HSKの模試を解いてみよう。 第13回 中国語で夏休みの予定を話そう。 第14回 中国語で夏休みの予定を書こう。 第15回 総括とまとめ。			
なお、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。			

【自学自習のためのアドバイス】

配布教材の該当箇所について音声を確認する (8時間)
該当箇所の進出単語を調べる (8時間)
指示された課題の作成 (8時間)

教科書・参考書等

教科書は購入する必要はない。基本的には教員が準備した検定やHSK教材、会話教材などに従って、会話の練習を中心に授業を進める。中国事情を紹介するため、映画鑑賞などに、ビデオ・DVDなどを使用する。

オフィスアワー 水曜日の4時限。緒方研究室。事前にメールでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業では、中国語で授業を進めていく、履修生の理解度を見ながら順次に中国語会話の練習をしていく。
この授業の中国語レベルについて質問のある学生は、教員にメールで相談すること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 045601) 中国語速修 I Intensive Chinese I Intensive Chinese I	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 2Q水3, 金4	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海, 李 九妹	関連授業科目 中国語 I 履修推奨科目 中国語 I			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム1年次の特別授業である。中国留学を目指す学生を対象に、HSK4級合格するために、初級中国語の内容を前倒して学習し、基礎的な能力(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養成する。教科書に従い、中国語の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能をバランスよく修得します。				
授業の目的 この授業では、中国留学に必要なHSK4級合格に必要な初級中国語の能力を習得することを目的とします。HSK4級で合格に必要な能力を養うために、初級中国語、中国語 I の教科書『漢語一語法和会話』の内容を前倒して学びます。この授業を通して、初級から総合的な中国語力を格段に伸ばすことを目的とします。				
到達目標				
1. 発音 正しい発音(ピンインと声調記号)と普通なリズムで簡単な日常会話ができる。 2. 聴力 基本的な単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 3. 語法 学習した初級文法事項を正しく使える。 4. 作文 既習の文法事項を利用し、簡単な文章が書ける。				
成績評価の方法と基準 出席、学習態度と自主学習の状況及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
授業は週2回行う。毎回事前予習と事後復習の内容を指示する。予習復習をしっかりすること。プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。				
第1回文法、教科書第5課 第2回文法、教科書第6課 第3回文法、教科書第7課 第4回文法、教科書第8課 第5回単語、文法確認テスト 第6回文法、教科書第9課 第7回文法、教科書第10課 第8回文法、教科書第11課 第9回文法、教科書第12課 第10回単語、文法確認テスト 第11回文法、教科書第13課 第12回文法、教科書第14課 第13回文法、教科書第15課 第14回文法、教科書第16課 第15回単語、文法確認テスト 第16回文法、教科書第17課 第17回文法、教科書第18課 第18回教科書の復習 第19回HSK2級模擬				

第20回HSK2級模擬
第21回HSK2級模擬
第22回HSK2級模擬
第23回確認テスト
第24回HSK2級模擬
第25回HSK2級模擬
第26回HSK2級模擬
第27回HSK2級模擬
第28回確認テスト
第29回総復習
第30回総復習

※なお、授業は対面で行う。学生の理解度と進度に応じて上記内容を変更することがある。
※ネイティブ・スピーカーの教員により、正しい発音、文法、作文の書き方ができるようになる。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する (10時間)
該当箇所の進出単語を調べる (20時間)
練習問題、ドリルを用いた復習 (20時間)
指示された課題の作成 (20時間)

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社生協で購入。

オフィスアワー 授業前後の時間
他の時間を希望する場合は随時相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複雑な文法の要点、適切な単語の使い分け、学生がつまづきやすい語順のルールなどがきちんと理解できるよう詳しく解説し、指導します。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 045602) 中国語速修Ⅱ Intensive Chinese Ⅱ 中国語速修Ⅱ (読解と作文) Intensive ChineseⅡ (Reading & Writing)	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 後期水2, 金4	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語応用演習Ⅰ、中国語応用演習Ⅱ、中国語速修Ⅲ			
	履修推奨科目 中国語応用演習Ⅰ、中国語応用演習Ⅱ、中国語速修Ⅲ			
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 60時間)				
授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム1年次後期の特別授業である。速修Ⅰで習った中国語初級の知識を踏まえて、HSK3級合格に必要な読解力と文の並べ替え、作文を重点に、HSK3級合格に必要な力をつける。同時にHSK3級合格で覚える単語数も確認します。				
授業の目的 秋学期はHSK3レベルの読解、文の並べ替え、作文問題を中心に扱います。必要な単語を習得し、文法を理解し、読解問題を解き、短い文の作文ができることを第一に、短文からゆっくり読み進めていくことを目的とします。HSK試験の特徴、出題傾向などを理解し、HSK3級レベルの単語・文法ポイントを集中的に学習する。				
到達目標				
1. 短文を読んで意味を正しく理解できる。 2. 既習した文法事項を用いて短い作文ができる。 3. HSK3 級に合格する読解能力を習得できる。 4. HSK3 級の範囲の単語・文法項目を習得できる。				
成績評価の方法と基準 出席、学習態度と課題提出及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
授業は週2回行う。HSK 3 閲読対策教材のほかに補充プリントを使う。毎回事前学習と事後復習の内容を指示するので、必ず予習復習をしっかりすること。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。				
第1回ガイダンス 授業の進め方の説明・確認。 第2回 HSK 3 閲読対策: 練習問題① 第3回 HSK 3 閲読対策: 練習問題② 第4回 HSK 3 閲読対策: 練習問題? 第5回 HSK 3 閲読対策: 練習問題④ 第6回 HSK 3 閲読対策: 練習問題⑤ 第7回 HSK 3 閲読対策: 練習問題⑥ 第8回 HSK 3 閲読対策: 練習問題⑦ 第9回 確認テスト 第10回 HSK 3 作文対策: 練習問題① 第11回 HSK 3 作文対策: 練習問題② 第12回 HSK 3 作文対策: 練習問題? 第13回 HSK 3 作文対策: 練習問題④ 第14回 HSK 3 作文対策: 練習問題⑤ 第15回 HSK 3 作文対策: 練習問題⑥ 第16回 HSK 3 作文対策: 練習問題⑦				

- 第17回 確認テスト
- 第18回 HSK 4 閲読対策：練習問題①
- 第19回 HSK 4 閲読対策：練習問題②
- 第20回 HSK 4 閲読対策：練習問題?
- 第21回 確認テスト
- 第22回 HSK 4 作文対策：練習問題①
- 第23回 HSK 4 作文対策：練習問題①
- 第24回 HSK 4 作文対策：練習問題①
- 第25回 確認テスト
- 第26回 文法の確認 動詞述語文
- 第27回 文法の確認 形容詞述語文
- 第28回 文法の確認 完了相
- 第29回 総復習
- 第30回 総復習

※なお、授業は対面で行う。学生の理解度と進度に応じて上記内容を変更することがある。
※ネイティブ・スピーカーの教員により、正しい発音、文法、作文の書き方ができるようになる。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する (10時間)

該当箇所の進出単語を調べる (20時間)

練習問題、HSK模擬テストを用いた復習 (20時間)

指示された課題の作成 (20時間)

学生諸君の理解度を確認しながら、HSK3級合格に必要な語彙力増強・読解力向上をはかる。
追って文法項目などを学習する。進度は履修者の習得度によりHSK4級に変更する場合がある。

教科書・参考書等

テキスト及びプリント資料、過去問題などを使用して進行する。

オフィスアワー 授業前後の時間

他の時間を希望する場合は随時相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複雑な文法の要点、適切な単語の使い分け、学生がつまづきやすい語順のルールなどがきちんと理解できるよう詳しく解説し、指導します。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 045603) 中国語速修Ⅲ Intensive Chinese Ⅲ 中国語速修Ⅲ (読解と作文) Intensive ChineseⅢ (Reading & Writing)	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 後期月4	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語速習Ⅱ 中国語応用演習Ⅲ			
	履修推奨科目 中国語応用演習Ⅲ			
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 60時間)				
授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラムの特別授業である。速修Ⅱで習った中国語初級の知識を踏まえて、HSK4級と5級合格に必要な読解力と文の並べ替え、作文を重点に、HSK4級と5級合格に必要な力をつける。同時にHSK4級と5級合格で覚える単語数も確認します。				
授業の目的 秋学期はHSK4級と5レベルの読解、文の並べ替え、作文問題を中心に扱います。必要な単語を習得し、文法を理解し、読解問題を解き、短い文の作文ができることを第一に、短文からゆっくり読み進めていくことを目的とします。HSK試験の特徴、出題傾向などを理解し、HSK4級と5級レベルの単語・文法ポイントを集中的に学習する。				
到達目標				
1. 長文を読んで意味を正しく理解できる。 2. 既習した文法事項を用いて長文の作文ができる。 3. HSK4級と5級に合格する読解能力を習得できる。 4. HSK4級と5級の範囲の単語・文法項目を習得できる。				
成績評価の方法と基準 出席、学習態度と課題提出及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
授業は週2回行う。HSK4級と5級読解、作文対策教材のほかに補充プリントを使う。毎回事前学習と事後復習の内容を指示するので、必ず予習復習をしっかりとすること。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。				
第1回ガイダンス 授業の進め方の説明・確認。 第2回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題① 第3回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題② 第4回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題③ 第5回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題④ 第6回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題⑤ 第7回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題⑥ 第8回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題⑦ 第9回 HSK4級と5級読解対策: 練習問題⑧ 第10回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題① 第11回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題② 第12回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題③ 第13回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題④ 第14回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題⑤ 第15回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題⑥ 第16回 HSK4級と5級作文対策: 練習問題⑦				

- 第17回 確認テスト
- 第18回 HSK 5 閲読対策：練習問題①
- 第19回 HSK 5 閲読対策：練習問題②
- 第20回 HSK 5 閲読対策：練習問題?
- 第21回 確認テスト
- 第22回 HSK 5 作文対策：練習問題①
- 第23回 HSK 5 作文対策：練習問題①
- 第24回 HSK 5 作文対策：練習問題①
- 第25回 確認テスト
- 第26回 文法の確認 動詞述語文
- 第27回 文法の確認 形容詞述語文
- 第28回 文法の確認 完了相
- 第29回 総復習
- 第30回 総復習

※なお、授業は対面で行う。学生の理解度と進度に応じて上記内容を変更することがある。
 ※ネイティブ・スピーカーの教員により、正しい発音、文法、作文の書き方ができるようになる。

【自学自習のためのアドバイス】

教科書該当箇所について音声を確認する (10時間)

該当箇所の進出単語を調べる (20時間)

練習問題、HSK模擬テストを用いた復習 (20時間)

指示された課題の作成 (20時間)

学生諸君の理解度を確認しながら、HSK4級5級合格に必要な語彙力増強・読解力向上をはかる。
 追って文法項目などを学習する。進度は履修者の習得度によりHSK5級に変更する場合がある。

教科書・参考書等

テキスト及びプリント資料、過去問題などを使用して進行する。

オフィスアワー 授業前後の時間

他の時間を希望する場合は随時相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複雑な文法の要点、適切な単語の使い分け、学生がつまづきやすい語順のルールなどがきちんと理解できるよう詳しく解説し、指導します。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045604) 中国語上級「読解」 Chinese Reading Chinese Reading	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 前期月2	対象年次 3～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目 中国語上級 「写作」、中国語応用演習Ⅲ 履修推奨科目 アジア文化論 アジア経済論 アジア社会論		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習45時間+事後学習15時間) 読解の授業であるが、テキストは音読するので、発音を事前に確認する時間も要する。			
授業の概要 この講義では、中国語で書かれた幾つかのジャンルにわたる入門書、専門書、論文を使って、書面語のパターンに習熟させる。また資料を音読させることにより、多くの専門用語の発音にも慣れさせる。			
授業の目的 この授業は、中国語コミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)の中で特に読解能力の育成に重点を置く。ネクストプログラムでは、留学先で専門教育の授業を受ける。その際、教科書はもとより、資料となる中国語文をある程度の以上の速度で読みこなしていかなければならない。この授業を通して、多量の中国語文を読むことに慣れると同時に、音読を通して、漢字=中国語音の転換に当たり、できるだけ辞書を頼らないで済むようになる。			
到達目標			
1 中国語の原文をある程度以上の速度で理解できる。 2 報道文・論文などで頻出する語句を習得する。 3 中国語の文章をなるべく辞書の補助なく音読できる。 この授業の到達目標は、共通教育スタンダードの a:課題解決のための汎用的スキル、b:広範な人文・社会・自然に関する知識 に対応する。			
成績評価の方法と基準 講義で扱う資料の読解力を講義時間にその都度チェックする。 試験も行う。(試験25%、授業時間での発表75%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。 授業時間に次回使用する文章を渡すので、下記の準備を行った上で授業に出ること。授業では交互に音読し訳す作業を行う。 題材は下の予定である。			
第1回 授業資料の配付と授業の進め方に関する解説 第2回 雑誌記事1 第3回 雑誌記事2 第4回 雑誌記事3 第5回 雑誌記事4 第6回 説明文1 第7回 説明文2 第8回 説明文3 第9回 説明文4 第10回 説明文5 第11回 学術書1 第12回 学術書2			

第13回 学術書3
第14回 学術書4
第15回 学術書5

【自学自習のためのアドバイス】

- 1) 指示された文章を訳出し、文章化しておく (20時間)
- 2) 指示された文章を音読できるように、発音が分からない、もしくは不確かな字について 確認をしておく。(25時間)
- 2) については、初めは時間を取られるが、次第にスピードアップできる筈である。
- 3) 誤った点を、事後文法事項に照らして確認する。(15時間)

教科書・参考書等

T B A。

教材自体はこちらで用意するので購入する必要はない。

オフィスアワー 月曜9:50~10:20 研究室(南キャンパス2号館)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの3年次生は必ず受講すること。指定された予習を必ず行っておくこと。
やむをえず欠席する場合は、予め担当教員に連絡を行うこと。テストは行わないが、そのかわり欠席が4回を超えた場合は、成績評価の対象としない。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045605) 中国語応用演習 I Chinese for HSK I 中国語応用演習 I Chinese for HSK I	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 後期末3	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語全般			
	履修推奨科目 中国語速習 I 中国語速習 II			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 HSK(漢語水平考試)は中国政府公認であり、国際的に通用する公的資格である。この授業はHSK3級の受験を目指す学生のための授業である。第一学年で習得した中国語の基礎文法を踏まえて、HSK3級で求められる中国語の基礎文法項目を徹底的に整理・攻略しながら、出題問題を素材に授業で解答作業を行う。				
授業の目的 中国の大学へ留学する際に要求されるHSK成績の向上を目指しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四方面にわたってバランスのとれた総合的基礎力を完成させるとともに、映画、ニュースなど多様なジャンルも活用して、中国語のレベルアップを実現する。				
到達目標				
1. HSK3級に合格できる中国語力を身につける。 2. 読み、聞き、書くことができるとともに、中国語を全般に渡って自主的に運用できる。 3. 日常の幅広い話題について、ネイティブと簡単なコミュニケーションをすることができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 上記の目標は(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、 「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)に対応する。				
成績評価の方法と基準 平常点40%、中間・期末の定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
演習形式で行う 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ~ 第5週 模擬テスト(1) 解答、説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ~ 第9週 模擬テスト(2) 解答、説明など 第10週 HSK問題演習—リスニング 第11週 HSK問題演習—リスニング 第12週 HSK問題演習—読解 ~ 第13週 模擬テスト(3) 解答、説明など				

第14週 全体の復習・まとめ
第15週 期末試験

【予習へのアドバイス】

この授業について1日1時間以上（週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない）の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭においた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。

教科書・参考書等

教材はプリントで配布。

オフィスアワー 水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム（中国語コース）受講生は必ず受講すること。

上記以外の学生についても1年次から受講可能である。ただし、受講希望者が20名を越える場合、履修制限を設ける。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045606) 中国語応用演習Ⅱ Chinese for HSKⅡ 中国語応用演習Ⅱ Chinese for HSKⅡ	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 前期木1	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム	
	授業形態 講義	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語速習Ⅲ、中国語上級「聴解」、中国語上級「写作」A			
	履修推奨科目 中国語全般			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 HSK(漢語水平考試)は中国政府公認の試験であり、国際的に通用する公的資格である。この授業はHSK4級の受験を目指す学生のための授業である。第一、二学年で習得した中国語の基礎文法を踏まえて、HSK4級で求められる中国語の文法項目を徹底的に整理・攻略しながら、出題問題を素材に授業で解答作業を行う。				
授業の目的 中国の大学へ留学する際に要求されるHSK成績の向上を目指しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四方面にわたってバランスのとれた総合的基礎力を完成させるとともに、映画、ニュースなど多様なジャンルも活用して、中国語のレベルアップを実現する。				
到達目標				
1. HSK4級に合格できる中国語力を身につける。 2. 読む、書く、聞く、話すことができるとともに、中国語を全般に渡って自主的に運用できる。 3. 日常の幅広い話題について、ネイティブと簡単なコミュニケーションをすることができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 5. 広範な人文・社会・自然に関する知識を身につける。 上記の目標は(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、 「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)に対応する。				
成績評価の方法と基準 平常点40%、中間・期末定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
演習形式で行う 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ～ 第5週 模擬テスト(1)解答、説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ～ 第9週 模擬テスト(2)解答、説明など 第10週 HSK問題演習—作文 第11週 HSK問題演習—作文 第12週 HSK問題演習—作文				

～

第13週 模擬テスト（3）解答、説明など

第14週 全体の復習・まとめ

第15週 期末試験

【自学自習に関するアドバイス】

この授業について1日1時間以上（週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない）の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭においた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔講義か対面となる。

教科書・参考書等

教材はプリントで配布。

オフィスアワー 火曜日4時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム（中国語コース）受講生は必ず受講すること。

上記以外の学生についても1年次から受講可能である。ただし、受講希望者が20名を越える場合、履修制限を設ける。

ナンバリングコード B2CHN-abcG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045607) 中国語応用演習Ⅲ Chinese for HSK Ⅲ 中国語応用演習Ⅲ Chinese for HSK Ⅲ	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 後期末1	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクス・プログラム	
	授業形態 講義	単位数 1		
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目 中国語速習Ⅲ、中国語上級「聴解」、中国語「写作」 A、B			
	履修推奨科目 中国語科目全般。			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 この授業はHSK5級の受験を目指す学生のための授業である。HSK5級の文法問題は長文問題が多く、そのために必要なトレーニングとして掲げねばならないのは、読解と聴解である。文化・経済・政治分野の中国語文献資料を読む聞くことによって、原文読解・聴解能力を向上させると同時に、中国語文法を高いレベルで系統的に整理し学習する。				
授業の目的 中国語文法の総仕上げを行いながら、HSK5級で求められる読解と聴解・作文・コミュニケーション能力の総合的向上をめざす。中国留学に対応できる水準の文章読解・聴解力、および実践的会話力を身につけるとともに、現代中国社会への理解を深めることを目的とする。				
到達目標				
1. HSK5 級に合格できる中国語力を身につける。 2. 留学にあたって現地の大学の講義を受ける際に支障のない中国語能力を身につける。 3. 辞書を使いながら、一般的な中国語の文章を読むことができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 上記の目標は(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、 「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)に対応する。				
成績評価の方法と基準 平常点40%, 中間・期末定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
演習形式で行う 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ~ 第5週 模擬テスト(1) 解答, 説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ~ 第9週 模擬テスト(2) 解答, 説明など 第10週 HSK問題演習—作文 第11週 HSK問題演習—作文 ~				

第12週 模擬テスト（3）解答,説明など

第13週 HSK問題演習ーリスニング

第14週 全体の復習・まとめ

～

第15週 期末試験

【自学自習に関するアドバイス】

この授業について1日1時間以上（週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない）の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭においた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔か対面となる。

教科書・参考書等

教材はプリントで配布。

オフィスアワー 水曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム（中国語コース）受講生は必ず受講すること。

ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Ex1 授業科目名 (時間割コード:045608) 中国語上級「写作」 Chinese Writing Chinese Writing	科目区分 特別教育プログラム	時間割 2023年度 前期金5	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 中国語	提供部局:大教センター DPコード: abx	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習	単位数 1	
担当教員名 緒方 宏海, 張 蕾	関連授業科目 中国語速習Ⅲ、中国語応用演習Ⅲ	履修推奨科目 中国語速習Ⅲ、中国語応用演習Ⅲ	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム中国語コース2年次の特別授業で、中国語の作文能力の養成を目的とする。授業の前半はHSK4級の試験対策を行い、HSK4級合格に必要な作文能力を養成する。後半はHSK5級レベルの各種文章の構文や常用表現などを学習し、中国留学時に課題をこなすための作文能力を養成する。			
授業の目的 授業の前半は、HSK4級「?写」問題の出題パターン、特徴等を確認し、問題を解く方法やポイントを学ぶ。トレーニングを通してHSK4級合格に必要な作文能力を身につける。後半は100文字前後の説明文、感想文などの文章の構文や常用表現を学習し、中国留学時に必要な中国語作文能力を習得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 正しい語順で中国語の文が書ける。 自分の意思を中国語の文章で正しく伝えられる。 HSK4級写作の合格スコアを取得することができる。 常用表現を使って説明文、議論文、感想文など100文字前後の論理的な文章が書ける。 中国文化や中国社会についての理解を深めることができる。 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応。5は「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 出席、学習態度と課題の提出および試験などで総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回予習範囲を指示する。しっかり準備して授業に臨むこと。			
第1週～第3週	HSK4級写作	並べ替え問題の対策	
第4週～第6週	HSK4級写作	絵と単語を見て作文の対策	
第7週～第9週	HSK5級写作	キーワードを用いた作文の対策	
第10週～第12週	HSK5級写作	絵を見て80文字前後の作文対策	
第13週	写?个人介?, 个人小??		
第14週	介?人物		
第15週	介?事物的来源与?展		
第16週	写?明文		
学生の理解程度やHSK4級の受験状況によっては内容や進度を変更することがあります。			

この科目は基本的に対面授業を行います。

教科書・参考書等

毎回プリント配布

オフィスアワー 毎回授業の前後時間
他の時間に希望する場合は随時相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム（中国語コース）受講生は必ず受講すること。